

地域包括支援センターの運営状況

① 介護保険「要支援」「事業対象者」の認定者状況等について

■ 要支援認定者数 《令和5年6月末現在》

◎ 要支援 161名（要支援1 ⇒ 86名、要支援2 ⇒ 75名）

《参考》要介護（要支援）認定者数（第1号被保険者・第2号被保険者の総数）（単位：名）

	要支1	要支2	要支計	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	要介護計	合計
R4.6	82	71	153	218	147	101	122	107	695	848
R4.9	90	72	162	227	149	103	111	108	698	860
R4.12	73	77	150	229	142	92	109	107	679	829
R5.3	91	72	163	216	136	94	125	94	665	828
R5.6	86	75	161	226	131	93	124	90	664	825

■ 介護予防支援サービス・総合事業利用者（R5年6月分）

実人数 82名

◎ 要支援 70名（要支援1 ⇒ 25名、要支援2 ⇒ 45名）

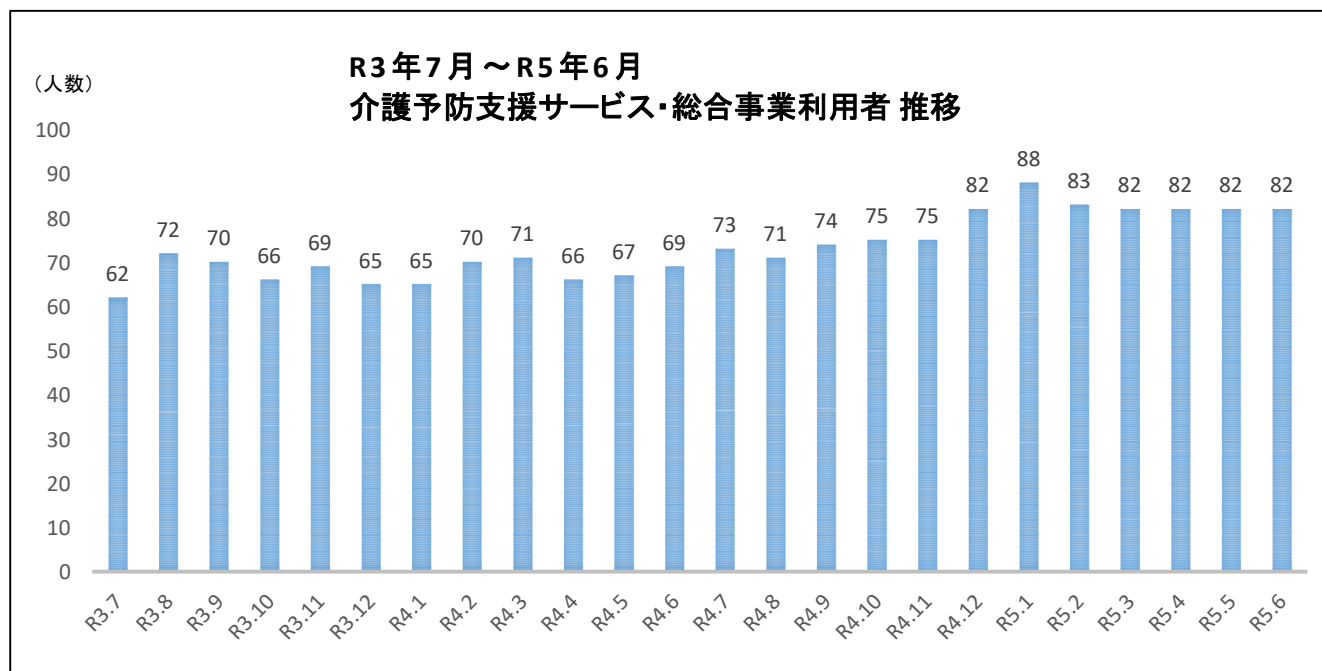
◎ 事業対象者 12名

【居宅介護支援事業所への委託件数】 ⇒ 10件 【事業所】 6事業所

委託先：社協（4件）、介援隊（1件）、虹の丘（2件）、あかり（1件）、のぞみ（1件）、介護の会（1件）

男女別、年齢別（R5年6月分）

	男性	女性	計
40～64歳	3	0	3
65～69歳	2	1	3
70～74歳	3	4	7
75～79歳	4	7	11
80～84歳	5	8	13
85～89歳	9	15	24
90歳以上	1	20	21
合計	27	55	82



※サービス利用者（契約者）の内、当月入院等の理由により、サービスの利用が無い場合もあります。

■ 事業対象者・要支援者サービス利用事業所 (R5年6月分)

◇ 訪問介護（ホームヘルプ）【総合事業】	⇒	【3事業所：7人利用】
ア 黒潮町社協訪問介護事業所		5名
イ 訪問介護事業所 黒潮		1名
ウ ヘルパーステーション 介援隊		1名
◇ 訪問介護（ホームヘルプ）【生活支援特化型サービス】	⇒	【2事業所：27人利用】
ア 黒潮町社協訪問介護事業所		22名
イ 黒潮町シルバー人材センター		5名
◇ 通所介護（デイサービス）【総合事業】	⇒	【5事業所：33人利用】
ア 通所介護事業所 しおかぜ		2名
イ デイサービスセンター 浮鞭		20名
ウ リハ・トレススタジオ リポート		4名
エ 通所介護事業所鹿島ヶ浦		4名
オ 黒潮町社会福祉協議会通所介護事業所こぶし		3名
◇ 訪問リハビリテーション	⇒	【1事業所：1人利用】
ア 竹本病院訪問リハビリテーション		1名
◇ 通所リハビリテーション（デイケア）	⇒	【3事業所：6人利用】
ア 老人保健施設 治優園		4名
イ 老人保健施設 アザレア		1名
ウ 老人保健施設いろは館		1名
◇ 訪問看護	⇒	【2事業所：4人利用】
ア 竹本病院訪問看護ステーション		2名
ウ 訪問看護ステーションくぼかわ		2名
◇ 福祉用具貸与	⇒	【6事業所：36人利用】
ア 株式会社 マサキ・ウェルフェア 西南事業所		7名
イ 株式会社 トーカイ 四万十営業所		8名
ウ 四国医療サービス(株)四万十営業所		16名
エ 有限会社あさひサービス		1名
オ アルフレッサ篠原化学薬品株式会社		1名
カ 土佐ガス株式会社aicoしまんと		3名
◇ 短期入所生活介護（ショートステイ）	⇒	【1事業所：1人利用】
ア 短期入所生活介護事業所シーサイド		1名

計

23 事業所

※ 延べ 115 名 利用

サービス費用総額 (R5年6月分) 1,951,940 円

内訳：196,399円（利用者負担額）+1,750,141円（保険給付額）+5,400円（公費）

② 令和4年度の実績報告

②-1 介護予防ケアマネジメント業務について

令和4年度は、介護予防及び日常生活支援を目的として、要支援1・2、事業対象者の方を対象に、訪問型、通所型、その他の生活支援サービスや、一般介護予防事業、NPOによるサービス等、多様なサービスを、対象者の状況に合わせて包括的かつ効率的に提供されるようにケアマネジメント業務を行いました。

■介護予防支援サービス・総合事業利用者（R5年6月分）

実人数：82名（要支援1：25名 要支援2：45名 事業対象者：12名）

■通所型短期集中運動機能向上サービス（通所型サービスC）

運動機能の向上だけでなく、セルフケア（自己管理）に向けた学習を行うことでサービス終了後においても、各自が継続的に生活機能を維持していく意識の向上を目指します。

対象者： 廃用性症候群、急性疾患のない方

内容： 週2回（午前）×3ヵ月間で運動機能の向上、服薬管理、栄養改善、口腔機能改善、自立した生活に向けた学習、自宅の生活環境の調整、等に取り組むことで利用者の生活の自立を図ります。

委託先 実施日	デイサービス浮鞭					通所介護支援事業所こぶし			
	火・金					月・木			
期	21期	22期	23期	24期	25期	12期	休止	13期	14期
期間	R4.3~R4.5	R4.6~R4.8	R4.9~R4.11	R4.12~R5.2	R5.3~R5.5	R4.4~R4.6	R4.7~R4.9	R4.10~R4.12	R5.1~R5.3
実人数	支援2	0	0	0	1	0	0	0	1
	支援1	0	2	1	2	1	1（中断1）	0	1
	事業対象	5	4	5（中止1）	3	5	4	0	4

通所型短期集中予防サービス（通所型サービスC）で使用している「下肢3点セット」



傾斜板



足ふみ運動



ステップ運動

運営協議会で、委員より、あったかふれあいセンターを活用した取り組みの提案を受けていました。NPOしいのみ、社協の協力を得て、上記、3点セットをあったかふれあいセンターにしきの広場、みうら、北郷、さがに設置し、通所型サービスCの受け皿として活用していただいています。

		にしきの広場	みうら	北郷	さが	白田川	はっぴい	計
R3年度	実	26	17	32	19	18	2	114
	延	150	164	248	305	56	24	947
R4年度	実	17	13	34	20	23	2	109
	延	194	160	177	463	74	282	1,350

*はっぴい：まちなか休憩室はっぴい

②-2 総合相談業務実績について

■ 令和4年度 相談業務実績

事項	種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
相 談	相 談 延 人 員	介護保険関係	140	110	133	106	138	130	141	132	152	156	154	1,643	
		関係機関からの相談	52	33	41	52	39	47	32	47	41	35	44	45	508
		施設・病院関係	4	1	1	2	4	1	11	9	10	8	5	14	70
		認知症関係	8	14	30	9	14	2	0	12	11	6	19	9	134
		虐待関係	6	3	1	2	1	0	0	4	0	4	5	23	49
		権利擁護関係	7	10	10	6	3	9	3	2	2	2	9	0	63
		その他見守り等	56	39	48	62	67	83	46	47	51	44	59	22	624
		計	273	210	264	239	266	272	233	253	267	255	292	267	3,091
実 績	相 談 実 人 員	介護保険関係	109	91	94	90	108	97	107	104	117	124	108	120	1,269
		関係機関からの相談	33	30	30	34	32	36	28	28	30	27	33	38	379
		施設・病院関係	4	1	1	2	4	1	8	8	8	6	5	11	59
		認知症関係	8	10	11	5	12	2	0	9	10	5	11	7	90
		虐待関係	3	3	1	2	1	0	0	3	0	4	4	4	25
		権利擁護関係	7	7	7	6	3	9	3	2	2	2	9	0	57
		その他見守り等	41	33	37	42	54	55	36	35	44	34	43	22	476
		計	205	175	181	181	214	200	182	189	211	202	213	202	2,355

相談事例については「相談者の主訴が解決し、主訴以外の困難な問題がない場合」「包括支援センター以外の適切な機関に繋げ、適切な引き継ぎが確認された場合」「後見人が選任された場合」「虐待の解消及び再燃リスクが消失した場合」等で相談対応を終了しています。

②-3 地域のケアマネジャーとのネットワークについて

■ ケアマネジャー情報交換会

※ ケアマネジャー：介護支援専門員

	日 時	出席者数
①	4月13日 (水) 9:30 ~ 11:30	17名
②	6月8日 (水) 9:30 ~ 11:30	14名
③	8月10日 (水) 9:30 ~ 11:30	16名
④	11月16日 (水) 9:30 ~ 11:30	13名
⑤	12月14日 (木) 9:30 ~ 11:30	13名
⑥	2月	中止
出席者合計		73名

■ 《内容》

- ケアマネジャーとの情報交換等
- ・ 事例検討（困難事例等）
 - ・ 制度改正等の研修
 - ・ その他、情報交換等
 - ・ 関係機関からの情報提供

■（出席者）地域包括支援センター、介護保険担当者、居宅介護支援事業所ケアマネジャー

■ ケアマネジメント連絡調整会議

町内外のケアマネジャーを対象に、研修会や健康福祉課からの情報提供を兼ねて、ケアマネジメント連絡調整会議を毎年開催しています。

日 時	出席者数	
5月20日 (金) 13:30 ~ 15:30	24名	説明会：避難行動要支援者個別避難計画・地域調整会議について

リモート参加環境を整え、3名がリモート参加された。

②-4 地域ケア個別会議について

事例検討を通して、理学療法士・管理栄養士・薬剤師・歯科衛生士等の多職種の専門職のアドバイスを
受け、自立に向けての支援内容の検討やアセスメント力の向上、また地域課題の把握等を目的に地域ケア
個別会議を開催しています。令和4年度は『通所型短期集中運動機能向上サービス（通所C型）』の対象
者としてのケース検討、地域のケアマネジャー受け持ちのプラン検討を行いました。

日 時				出席者数
①	5月12日	(木)	13:30 ~ 16:30	11名
②	6月9日	(木)	13:30 ~ 16:30	14名
③	7月14日	(木)	13:30 ~ 16:30	
④	8月12日	(金)	13:30 ~ 16:30	11名
⑤	9月8日	(木)	13:30 ~ 16:30	12名
⑥	11月10日	(木)	13:30 ~ 16:30	11名
⑦	12月8日	(木)	13:30 ~ 16:30	12名
⑧	1月19日	(木)	13:30 ~ 16:30	21名
⑨	2月9日	(木)	13:30 ~ 16:30	10名
⑩	3月9日	(木)	13:30 ~ 16:30	11名
出席者合計				113名



②-5 認知症サポーター養成講座について

認知症について正しく理解し、さりげない気づかいや思いやりを持って接しながら、認知症の人や家族
を温かく見守り、認知症になっても安心して暮らせる黒潮町とするために、地域で支える輪を広げてい
こうと認知症サポーター養成に取り組んでいます。

日 時	場 所	受講対象者	受講人数
5月12日	黒潮町役場3階会議室	役場住民課	18名
11月20日	黒潮町役場3階会議室	役場健康福祉課	20名
12月13日	大方高校	生徒	3名
2月2日	大方中学校	教員	6名
2月8日	黒潮町交流センターみらい	地域住民	11名
			58名

- * 内 容 : 「認知症を学び地域で支えよう！」
- ◆ 「認知症とは？」
 - ◆ 「認知症の予防とケア」
 - ◆ 「認知症サポーターとは」
 - ◆ 「具体的な対応のポイント」

②-6 チームオレンジの活動について

サポーターの地域活性化につなげるチームオレンジの活動に取り組みました。令和元年度から活動している1チームに加えて、令和4年度から2チーム目も活動をしており、ミニ講座、認知症かるた等での認知症に関する啓発を行っています。また、引き続き、認知症サポーター養成講座を行いロールプレイや寸劇などで認知症に関する理解を広められるよう活動をしています。

日時	内容	場所	参加人数 (内チーム員)
5月12日	認知症サポーター養成講座	黒潮町役場3階会議室	18名 (5)
7月14日	認知症かるた	あったかさが	11名 (5)
7月20日	認知症ミニ講座	あったか 白田川	11名 (1)
7月27日	認知症かるた	黒潮町交流センターみらい	22名 (4)
8月1日	認知症かるた	あったかこぶし	11名 (8)
8月6日	若年性認知症家族座談会	あったか にしきの広場	17名 (2)
11月16日	認知症ミニ講座	あったかサテライト佐賀橋川	11名 (2)
11月20日	認知症サポーター養成講座	黒潮町役場3階会議室	20名 (4)
12月14日	認知症ミニ講座・絵本読み	あったかこぶし	7名 (3)
1月19日	認知症ミニ講座・かるた	黒潮町交流センターみらい	7名 (3)
1月30日	認知症ミニ講座	あったか こぶし	11名 (6)
2月8日	認知症ミニ講座	黒潮町社協2階	26名 (3)
2月8日	認知症サポーター養成講座	黒潮町交流センターみらい	11名 (7)
合計			183名 (53)



②-7 認知症に関する講演会について

例年、認知症の予防、重度化防止を目的に認知症に関する講演会を実施しているところですが、今年度については、新型コロナウイルス感染症の状況から講演会の実施ができていません。

②-8 認知症介護家族の座談会について

認知症の人を介護している家族の方等に、日頃の介護の悩みや相談について語り合い、思いを共有できる場として、座談会を開催しています。

日時	場所	参加者	備考
8月6日	あったかふれあいセンターにしきの広場	17名	若年性認知症家族の座談会
11月5日	あったかふれあいセンターにしきの広場	25名	
2月4日	あったかふれあいセンターにしきの広場	19名	
合計		61名	

②-9 脳のちよいトレ教室について

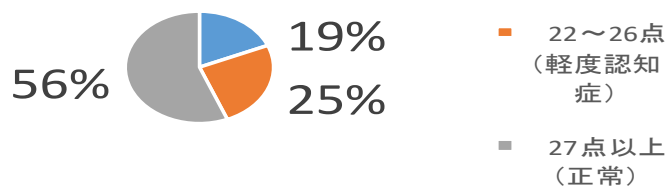
認知症予防・進行抑制と、社会参加のきっかけづくりを目的として、簡単な読み書き・計算などに継続して取り組むことで脳の活性化を図ります。

大方教室は令和元年から、佐賀教室は令和2年度から年間を通して実施しています。スタッフが利用者に合わせて内容を提供し、楽しんでもらえるよう工夫して実施しています。参加者からは「楽しいので続けて参加したい」「来るのが楽しみ」という声を沢山いただいています。

また、認知機能の変化を把握するため、年2回MMSE検査を実施しています。R5年3月20日に受けた16名の方の内訳は、27点以上：9名（56%）、22～26点：4名（25%）、21点以下：3名（19%）でした。年2回の検査を連続で受けた方が9名あり、内訳は、改善4名、維持2名、低下3名でした。

	大方教室	佐賀教室
実施主体	NPOしいのみ	黒潮町社会福祉協議会
開催日	火曜・金曜	月曜日
場所	あったかふれあいセンターにしきの広場	あったかふれあいセンターさが
受講参加者	実62名 延1402名	実42名 延668名

参加者の傾向
R5年3月20日（16名）



②-10 高齢者虐待対応について

■ 高齢者虐待対応件数

養護者による高齢者虐待(疑い)件数

年度	対応件数	内、虐待と判断した件数
令和元年度	29件	3件
令和2年度	6件	2件
令和3年度	1件	0件
令和4年度	4件	2件
令和5年度	0件	0件

令和元年度より、虐待などの重大な権利侵害に陥るリスクが高いケースを「権利擁護ハイリスクケース」と位置付けて、積極的な早期介入と適切な制度・サービス利用の促進、定期的なモニタリングなど重度化を防ぐ取組みを強化しています。その結果、虐待対応・認定件数は年々減少傾向にありますが、反対にハイリスク対応ケースは毎年増加しており、令和4年度は69ケースを支援しました。高齢者虐待に陥る要因の一つとして、近年の8050問題(80代の親が50代の子どもの生活を支えるという問題)を抱えるケースの増加があげられます。地域の中で潜在化し社会的に孤立する8050問題世帯の親が要介護状態となったとき、家庭内のパワーバランスが崩れ、子どもによる経済的虐待・身体的虐待、ネグレクトの発生が増えています。

■ 黒潮町高齢者虐待防止ネットワーク会議

法的根拠に基づく判断が必要なケースが増加しているため、令和元年度から法テラスの弁護士に黒潮町高齢者虐待防止ネットワーク委員を委嘱しています。

高齢者虐待防止ネットワーク委員として、新たに委嘱された委員に向けた高齢者虐待に関する学習と、現在の黒潮町の現状を報告するための研修会を開催しました。

黒潮町高齢者虐待防止ネットワーク会議 委員向け研修会

令和4年6月6日(月) 10:00~12:00

参加者: 17名

②-11 成年後見制度普及啓発講演会について

権利擁護ケースの早期発見・対応を目的に、町内及びその近辺市町の高齢・障害者施設、事業所等で相談業務やサービス調整を行う職員を対象に、日常業務で抱える課題に対する助言と、制度・サービスの周知を行う講演会を開催しました。

日時: 令和5年3月28日

講師: 曾根行政書士

参加者: 25名

②-12 緊急事務管理について

親族による支援が見込めない高齢者、知的障害者、精神障害者で判断能力が不十分となり金銭等の管理が困難となった際に、生命、健康及び財産の保護を図るため、民法第698条の規定に基づき「黒潮町緊急事務管理実施要綱」を作成し、令和2年4月1日より業務を黒潮町社会福祉協議会へ委託して実施しています。成年後見制度や日常生活自立支援事業、親族等に移行できるよう支援しています。

■利用実績 (R5年3月末時点)

利用者数：8名（うち終了3名）

②-13 成年後見制度利用支援について

認知症や知的障害、精神障害などによって判断能力が不十分な方は、金銭管理が難しくなっていたり、各種手続きを行うことが難しくなります。そのような方が必要な支援を受けられるように、成年後見制度の説明や親族申立ての支援を行っています。

近年、家族関係の希薄化等により親族の支援を受けることが難しくなっているケースが増えており、首長申立ての件数が増加傾向です。

R5年3月末時点

首長申立て	4名	3名完了、1名手続き中
親族申立て	6名	3名完了、3名手続き中

②-14 高齢者見守りネットワーク（地域のネットワーク）づくりについて

高齢過疎化に伴い、家族間や住民同士の関係性が薄れることで、町内でも孤立死や認知症高齢者が行方不明になる事案、詐欺被害や金銭搾取などの権利侵害を受けるケースが増えています。このため、地域の中で支援が必要な方を見守る仕組みや、組織づくりを行うことを目的に、平成23年度より、地元の民間事業者が日常業務の中で住民に関する何らかの異変等を察知した場合に、速やかに黒潮町役場に連絡する見守りネットワークシステムの構築を進めています。現在、黒潮町と17事業所が締結しています。

②-15 民生委員への情報提供及び高齢者実態調査について

今年度も民生委員に対して65歳以上の名簿を公開するとともに、民生委員協力のもと高齢者の実態調査を行いました。

また、この調査に基づき状態確認の必要と思われる方を抽出し訪問しました。

本人からの聞き取りや状態を確認し、サービス利用の必要がある方は、介護申請や脳のちょいトレ教室、短期集中運動機能向上サービス、あったかふれあいセンター等に繋げています。

- 調査数：4,752人（大方地区：3,353人、佐賀地区：1,399人） R4.4.1時点
- 調査項目…居住確認、独居・高齢者のみ世帯、支援の必要性、入院・入所
- 訪問・把握 63人（大方地区44人、佐賀地区：19人）